

## 検証を終えて

当委員会では、本件事故について広範囲にわたる情報の収集に加え、現地調査や関係者への聞き取り調査を実施し、講習会の計画や実施内容、当日の各班の行動、事故発生時と救助の様子、その後の各学校の対応の状況等の概要を整理したうえで、問題点の指摘も含めた第一次報告書を平成29年6月30日に提出した。

その後も追加の資料収集と聞き取りを行うとともに、それまでの検証結果を分析・評価し、講習会実施に向けた準備と企画・運営、支援体制や判断の適否、指導体制と指導者の資質、緊急時の通報・連絡体制、学校登山事故と安全への配慮の在り方など、多角的な視野から議論を経て事故の発生原因や問題点を整理し、今後の事故防止に向けた提言を取りまとめた最終報告書を提出するに至った。

一連の作業においては、県教育委員会、高体連、本件講習会参加の各学校関係者、防災科学技術研究所等から多大なる御協力を頂いたことに謝意を表する。とりわけ、尊い命を奪われた生徒や教員の御家族の方々や事故に遭遇された生徒の方々からも貴重かつ率直な御意見等をお寄せいただいたことに心から感謝申し上げます。

本報告書の内容については、今回の雪崩事故の関係者、とりわけ肉親を亡くされた御遺族の方々には、雪崩の発生原因を明言していない点も含め、不満や物足りなさを感じられる点もあるであろうことは想像に難くない。しかし、手元に収集された情報からは、自然発生と人為発生という両方の可能性を否定できないということが検証の結果であることを、どうか御理解いただきたい。ただし、今回の事故の要因の一つとして、本部を含めた引率教員等の間で雪崩発生の危険性に対する意識が著しく欠如していた点にあることは動かし難い事実であり、その点では当該分野を研究する委員はもとより、今回の検証に関わった他の専門分野の委員としても<sup>じくじ</sup>忸怩たる思いを禁じ得ないところである。

平地に積もった雪面を風が吹けば、雪が舞い上がって吹雪となる。一方、山の斜面に積もった雪が重力のもとで雪崩として流れ下る事象はある意味で自然の理である。油断や慣れもあったかと思われるが、いま少し自然に謙虚に向き合う姿勢が欲しかった。

当委員会は、登山や法律の専門家から雪の科学を生業とする研究者に至るまで異なる専門分野の委員から構成され、それぞれの専門的な立場から有益な意見が提示され、隔意のない率直な意見の交換が行われた。収集かつ検討すべき情報量の多さと最終報告書を取りまとめるまでの時間的制約などから、委員会そのものは実務的な作業に追われがちであった点は課題として残るが、非公開の議論の場では、当時の気象や積雪の状態から、雪崩注意報に対する関係者の意識、高校の部活動の実態、現在の登山研修所の状況、さらには、救命・救助活動の実態など、多種多様の情報交換を踏まえて様々な視点から意見が交わされたことを申し添えておきたい。

最後に、本報告書に記載された事故防止に向けた種々の提言内容について、栃木県にとどまらず全国の関係者の方々の間で忌憚<sup>きたん</sup>のない議論が行われ、登山部顧問等の資質の向上、ひいては高校生等の若人たちが山へ向かおうとする心意気と情熱の灯を燃やし続ける一助となることを心より願う次第である。

平成29年 3 月27日 那須雪崩事故検証委員会 副委員長 西村浩一  
委 員 一 同